

令和5年3月14日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

同和問題調査特別委員長 大河原 昭洋

委員会調査報告書

本委員会の調査事件について調査を実施したので、智頭町議会会議規則第77条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日

令和5年2月9日（木）

2. 場 所

八頭郡智頭町大字智頭2072番地1 「智頭町役場 委員会室」

3. 内 容

智頭町議会議員 人権同和研修会

演題：部落差別の解消と人権の確立をめざして

講師：部落解放同盟鳥取県連合会 副委員長 坂根 政代 氏

4. 目 的

同和問題の現状やその解決策についての理解を深め、議員の立場で取り組むべきことを再確認し、今後の議会活動及び議員活動に資する。

5. 派遣委員

仲井 莖 議員、西尾 寿樹 議員、岡田 光弘 議員、田中 賢 議員、谷口 翔馬 議員、波多 恵理子 議員、安道 泰治 議員、河村 仁志 議員、谷口 雅人 議員、宮本 行雄 議員、大河原 昭洋 議員

6. 所 感 等

今年度の同和問題調査特別委員会の研修会は、コロナ禍によって3年ぶりの開催となった。今回の講師として、部落解放同盟鳥取県連合会、副委員長、坂根政代氏をお招きし、「部落差別の解消と人権の確立をめざして」という演題で行われた。

近年の部落差別事象として、行政機関に「どこどこは同和地区か」という問い合わせも未だに毎年数件発生していること、自分に非はなくても何かあるごとに「や

「っぱりあっちの人だ」と言われるなど、何年経っても何をやっても何かの機会に差別として表われてくるということだった。結婚差別に関しても戸籍謄本の不正取得により身元調査が行われていることや、最近ではインターネットなど、顔の見えない情報空間での出来事が大きな差別事象として問題となっている。特に「鳥取ループ」と名乗る者がインターネット上に全国部落地名総監などを公開し、何度も削除要請し、これまでに200件くらい削除されているが、次から次へと手を変え公開し続けていることなど、具体的事例を分かりやすく解説していただいた。

明治の身分制度を廃止した解放令の施行以来、100年以上経過しても形を変えて存在する部落差別をなんとかなくし、次の世代に残さないための行動をしていくことが大切であり、差別の実態把握と被害救済、再発防止、人権委員会の設置など、今後の部落差別の解消と議会としての条例作成などの関わりが必要となり、議会議員一人ひとりの意識改革の必要性・重要性を更に考え、実行していく事の一助となる講演であった。

人権確立の仕組みづくりという観点から、法律、条例の必要性、現在の法、条例の対応を他の団体の具体的例が示された、智頭町の制定している条例に「差別禁止」条項を加える事の必要性を感じる議会としての共感、一致が必要と考える。その条件を満たすためにも今後しっかりと学習、議論を必要とする。差別根絶に責任ある立場にある議会の活動をコロナ禍で停滞気味であった活動を活発化していく必要性を感じた。